

指定校番号	28094	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立昭和北中学校	校長	松田 恭尚	生徒指導主事	東風 剛
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『体育大会』

取組のねらい『キーワード…クラスの団結』

ア 学級集団の輪を広める中で、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。㊦㊧

イ お互いの健康と安全に留意し、粘り強くやり抜く力を育てる。㊨

※㊦㊧㊨は、生徒指導の三機能である。

取組の具体的内容『キーワード： one for all all for one』

- 1 各学年学級対抗方式を採用し、団結力を高める。
 - ア 本校の体育大会は、学級開きから1か月後の5月に計画されており、級友同士の結びつきがまだまだ薄いため、学級対抗方式をとり、同じ目標に向かって団結していくことで、級友の良いところを発見し結びつきを強くする場とする。㊦
 - イ 団体種目の練習は体育の授業の時だけでなく、始業前や昼休憩、放課後に行ってもよいこととする。㊧㊨
- 2 競技はもちろん、行進の評価も行う。
 - ア 入場行進の状況について全学級を評価し、予行演習（校長・保健体育科）と本番（校長・保健体育科・PTA役員・来賓）において、「元気よく歩いたで賞」をそれぞれ授与する。㊨

取組の課題・創意工夫『キーワード：自己有用感，所属感』

- 1 取組の課題

運動が苦手な生徒のやる気をいかに高めるか、また、その生徒に対する級友たちへの指導・助言をいかに行うかが課題である。
- 2 取組の創意工夫（生徒会の活躍の場を確保し、生徒が主体的に動くような体育大会にする。）
 - ア 体育大会のスローガンやプログラムの表紙図案を全校生徒から募集し、生徒会が決定した。決定したものはプログラムや懸垂幕に活用した。㊦㊧
 - イ 個人種目を決める時に、運動が苦手な生徒から優先して決めさせるように指導した。
 - ウ 全員リレーでは、走順やテークオーバーゾーンの工夫などについて、各クラスで検討を繰り返させた。㊦㊧㊨

取組の成果（効果）『キーワード：達成感』

1 1月にとったアンケートによると、「自分の良さがまわりから認められている」と肯定的に回答した生徒の割合が98%、「学校に来るのが楽しい」については97%であった。体育大会では、生徒同士が励まし合い、協力し合い、時には意見をたたかわせながら優勝に向かって心をついにしようと練習に取り組み、本番ではクラスの一員として全力を出し切ろうとする姿が見られた。また、入賞できなかったクラスも達成感に満ちた表情が見られた。

今後の展開『キーワード：団結』

生徒の意欲を高めるために、生徒同士が協力しながら目標に向かって取り組めるものを様々な場面に取り入れていく。

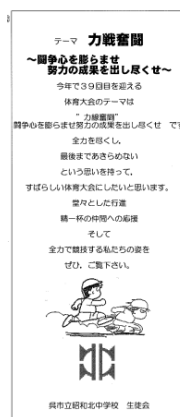
他校へのアドバイス『キーワード：生徒同士の絆を信じる』

生徒は、我々教職員よりも同級生からどう思われているかについて敏感に感じ取るし、結びつきも強い。大人から押し付けられたことには反発することもあるが、自分たちで決めたことはやろうと努力する。各教育活動を生徒の自主性や主体性をより尊重するものに改善し続けていきたい。

【本校体育大会の様子】



体育大会プログラム



懸垂幕



黒板に書かれたメッセージ



入場行進



台風の日



6人7脚



長縄



全員リレー